

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第125号

[2021年4月発行]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。

JAMより、2021年4月号の会報をお送りします。

JAMは2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動を2カ月に一度、会報メールにて発信いたします。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次>

メータオ・クリニックのシンシア院長からのメッセージのお届け

現地（メソト）から

国内から

国際保健医療協力のなかで（48）

編集後記

次号の予定



メータオ・クリニックのシンシア院長からのメッセージのお届け

シンシア院長のビデオメッセージをYouTubeにアップロードしています。
このビデオメッセージは2021年1月30日のオンライン活動報告会のために作成されたものです。

シンシア院長にメータオ・クリニックの感染対策についてお話しいただき、JAMとJAM支援者の皆様へ感謝の言葉をいただきました。オンライン活動報告会に参加されなかった皆様にもシンシア院長のメッセージをお届けしたいと思い、YouTubeにアップロードいたしました。

シンシア院長のビデオメッセージURL

<https://www.youtube.com/watch?v=K1XTpZEiPvo>



Dr Cynthia thanks message to JAM and supporters in Japan JP subtitle

メータオ・クリニック支援の会のチャンネルには、タイとミャンマー国境の様子についてのビデオもありますのであわせてご覧いただけますと幸いです。

現地（メソト）から

【メソト：有高】

今週は、タイではソンクラン、ミャンマーではティンジャンと呼ばれる旧正月のお休みでした。どちらの国でも人々が水をかけ合って新年を祝う水かけ祭りというお祭



りがあり、元々は水をかけることで旧年の汚れ、悩みや苦しみを洗い流し、身も心も新たに新年を迎えるという意味があるそうです。

しかし、今年はタイでは、政府が昨年引き続き新型コロナウイルス感染症対策として水のかけ合いやパーティを禁止したため、何もない静かなソンクランとなりました。そしてミャンマーでは軍政は例年通りの水かけ祭りを奨励しましたが、大多数の国民はクーデター後の混乱で亡くなった人々を悼み、悲しい静かなティンジャンを過ごしたようです。

タイ国境に接するカレン州への空爆が始まった3月27日以降、メソトのミャンマーコミュニティには連日大量の食料、衣類、医薬品、防水シートなどの寄付が、メソト市内や遠くはバンコクなどから集まって来ています。地元のボランティアが保存食を作ることもあり、私も時々手伝っています。支援物資は250 km北上したメーホンソン経由で、国境のサルウィン川を渡ってカレン州に運び込まれます。



写真左 タイ各地から寄付された支援物資



写真右 保存食を作り袋詰めするメソトの人々



写真左 抗生物質や鎮痛剤、消毒薬などをバックパックに詰めて送ります。

写真右 寄付された食料のケースに、3本指の絵とともに「独裁はいらない」と書かれていました。



写真左 サルウィン川を渡る支援物資。タイ国旗を掲げているのはタイ政府公認の印。

(Karen Thai Group Facebook より)

写真右 カレン州側での輸送の様子 (Karen Thai Group Facebook より)

タイ政府は当初支援物資のミャンマーへの輸送を禁止していましたが、4月5日以降、制限はありながらも許可しているようです。国境でのタイ政府との交渉、物資の輸送には Karen Thai Group というタイの市民権を持つタイカレン人の団体を始め、多くのカレンコミュニティが関わっています。4月中旬現在、おおよその推定で空爆された地域の人口約2万人が村から避難し、約3000人がサルウィン川沿いのタイ側に、約3000人がミャンマー側に、そして1万人以上が川から少し離れたジャングルに隠れていると言われています。特にジャングルに散らばった人々に物資を届けるの



は困難で、雨でぬかるむ道なき道を進むトラックや徒歩の人々の写真が、SNS でしばしば見られます。

JAMは4月4日、メーリングリスト、ホームページ及びFacebook上で皆さまに東ミャンマー緊急支援のお願いをしました。その結果、4月17日の時点で、約70名の方から計約90万円のご寄付をいただきました。第一弾としてすでにメータオ・クリニックに送金した72万円を上回る金額が2週間で集まったことに驚くと同時に、ご支援くださった方々に深く感謝申し上げます。今もカレン州やカチン州では地上戦や空爆が行われており、ヤンゴン、バゴーなど都市部での死傷者、逮捕者も増え続けています。JAMはミャンマーに真の平和が訪れるまで、メータオ・クリニックを通じてミャンマーの人々に息の長い支援を続けることを目指しています。

今後もメータオ・クリニックへ第二弾、第三弾の支援を予定しておりますので、ご支援のほど宜しくお願いいたします。

メータオ・クリニック内の話題としては、4月5日大雨の夜に外科病棟と内科病棟の屋根の一部が2、3mの範囲にわたって崩落しました。内科病棟で落ちた屋根の真下には使用中のベッドもありましたが、幸い患者さんやスタッフには怪我はありませんでした。築5年の、しかも病院の天井が落ちるとは、日本ではあまり聞かない話で、クリニックのスタッフも5年しか経っていないとあきれていたもので、こちらでも珍しいことのようにです。この病棟は特定の寄付者なしで建設された建物で、また至急修理する必要があるため、メータオ・クリニックの緊急予算から修理費と他の屋根の点検費用を捻出するとのことでした。日本財団など日本が資金協力した建物は今のところ大きな問題なく使っていますが、これから雨季に向けて他の建物に問題が起きないことを祈ります。





写真左 天井の落ちた外科病棟



写真右 同じく内科病棟

また JAM が支援しているふたつの移民学校のうちのひとつ、New Road 校から最近緊急支援の要請を受けました。New Road 校はタイ人の地主さんから土地を借りていますが、従来の資金難に加え、新型コロナウイルスパンデミックによる休校などで収入がほぼゼロになり、2019 年以降家賃の支払いを延期してもらっていたそうです。しかし、最近、地主さんの親族が事業に失敗したため、5 月までに 3 年分の家賃をまとめて支払わなければ退去するよう通告されたということで、メータオ・クリニックの学校保健担当者を通じて泣きの連絡が入りました。

なぜ 3 年間家賃が未納だったのか校長先生に質問したところ、2019 年までタイのある財団から職員給与の支援を受けていたが毎年給与が 20% ずつカットされ、また要求も厳しかったため支援を受けるのを止めた、2019 年は生徒数が増え、広範囲から通学するようになったため通学バスを一台購入したため家賃を払えなかった、2020 年 6 月以降はパンデミックのため 2021 年 3 月まで休校になり授業料収入が途絶えた、再開後もミャンマーからタイに戻れない子供が多く生徒数が激減した、通学している生徒の親も仕事が無くなり学費が払えない、今までは余裕がある家庭は学校に寄付をしてくれていたがそれも無くなった、現在 New Road 校のドナーは JAM のみでタイ経済が悪いため新しいドナーを得るのも困難、とのことでした。

これがパンデミック下の移民学校の現実であり、これまで支援してきた New Road 校を立ち退かせるわけにもいかないため、JAM は過去 3 年分の家賃から支払い済みの



20,000THBを除いた106,000THB(約37万円)を提供することに決定しました。来年以降の家賃がどうなるかやや不安ですが、校長先生は安堵していらっしゃいました。



写真 学校再開初日のNew Road校の子供たち

皆さまから頂いたご寄付はこのようにメータオ・クリニックのみならず、メソットのミャンマーコミュニティ、また東ミャンマーの人々に確実に役立っています。現地派遣員として、それを実感できるのが喜びです。

国内から

【日本事務局：東山】

1988年。私が生まれる1年前。こんなにも多くの方が命がけで立ち向かったということ。自分たちのために、みんなのために。そして多くの命が失われたということ。

2018年夏。日本ビルマ救援センター(BRCJ)タイ・ビルマ国境訪問として、タイ、メソットにあるビルマ政治囚支援協会(AAPPB)を訪れた私は、8888民主化運動をはじめ、これまでビルマが歩んできた道のりを実際に見聞きし、大変な衝撃を受けました。刑務所を再現した建物の中に、生々しい写真や絵、物品。人間の残酷さ、愚かさとともに、民主化運動をしていた人たちの生きることの立ち向かう、熱い、力強い意志と勇気を全身で感じました。そして、いまだ政治囚として捕らえられている人たちがいるという事実を知り、民主化は進んでいるとはいえ、ビルマの人々の心ではまだまだ運動は終わっておらず、完全なる平和と自由が訪れない限りこれからも運動の魂は続いていくのだと感じました。



刑務所の分厚い、重い扉を開けて外に出るとき、ちょうど頭上にアウンサンスーチーさんの‘please use your liberty to promote ours’という言葉に見送られました。ビルマの実情を知った今、私はこれからどのように生きていけばいいのか。そう自分に問いかけたことを覚えています。

一緒に国境訪問に訪れていた、かつて8888民主化運動に参加し、難民として日本に逃れてこられた友人がAAPPBを去る際「本当に、大変だったよ」と私にぽつりと呟かれました。「大変」という言葉に込められた思い。苦しみ、悲しみ、悔しさ、怒り。きっと、そんなありふれた言葉では表現することのできない、私には計り知れないものだと思います。今隣にいる友人がかつてこの民主化運動の場にいたのか、そう思った瞬間。本当に生きていてくれて、出会えてよかったと心底感じました。

2021年2月1日。軍事政権によるクーデターが起き、民主化の一途を辿ると思っていたビルマが一瞬で覆されました。AAPPBでみた惨状が、再びビルマで繰り返されている。ビルマとタイで出会った人たちの命が脅かされている。本当に怒りとショックで、心に大きく穴が開いたような空虚な気持ちが、今日まで続いています。

日々、情報が錯綜する中で、もはやなにが正解かわかりません。でも、ただ、そこにいるだけの子どもや立ち向かう人たちの命が日々失われていることは事実です。そしてそのような悲惨な状況が起きている傍ら、今、私は日本で生きている。

私にできることはなにか。

人間の愚かさ、自身の無力さに絶望している暇はないのは分かっている。

少なくとも私が尊敬する周りの大人たちは、絶望ではなく、立ち上がっている。

「国際社会からの関心、支援が必要です」

「エールを、一人ひとりができるアクションをお願いします」

ミャンマー（ビルマ）の民主化を支援する関西学生ネットワークとBRCJ協同活動による市民的不服従運動（CDM）支援のための募金活動で、道行く人に懸命に問いかける学生さんたちの言葉です。傍でともに立ちながら、何度も、何度も、熱いものがこみ上げてきました。

私にできることはなにか。私は日々、自分自身に問いかけずにはられません。

微力でも、活動に携わること。

今の状況に目を背けず、しっかりとみること。向き合うこと。

今、あらためて‘please use your liberty to promote ours’を胸に、絶えず、問いかけること。

あきらめないこと。

それが今の私ができる、ビルマで立ち向かう人へのエールであり、軍事政権への抵抗であると思っています。



追伸【自己紹介】

はじめまして。この度、初めて記事担当させていただきました、東山諒子と申します。

私は普段、精神医療領域における訪問看護ステーションに所属し、作業療法士として仕事をしています。人の心や回復における対話、関係性やつながりに関心があり、畑を心の師匠におき、土や自然からの学びを糧、希望にしながら日々生きています。

私とメータオ・クリニックおよびJAMとの出会いは、2018年日本ビルマ救援センター（BRCJ）タイ・ビルマ国境訪問にて、メータオ・クリニックに訪問する機会をいただいたことがきっかけでした。医療・治療を求めてビルマからメータオ・クリニックに駆け込んできた方々を無条件に受け入れ、基本無償で医療を提供するという在り方に感銘を受け、医療本来の究極の助け合い、やさしさを実現しているメータオ・クリニックで、いつか私も活動したいという想いを心に秘めています。JAMには昨年ごろよりお仲間に入らせていただき、心の熱いプロの皆さんの中で日々学ばせていただいているところです。今後ともよろしく願いいたします。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

国際保健医療協力のなかで (48)

【小林 潤】

「人道支援」

ミャンマーの軍部によるクーデター後の混乱によるNEWSを毎日のように受け、本当に心苦しく感じています。今回の緊急支援を進めるなかで、改めて人道支援とは何なのか考えて討議を事務局内で行いましたが、私として改めて確認しなおしたことを今回書きたいと思います。

第2次世界大戦後1949年に武力紛争が生じた場合に傷者、病者、難船者及び捕虜、これらの者の救済にあたる衛生要員及び宗教要員並びに文民を保護するために作られたのが有名なジュネーブ4条約です。その後、世界の武力紛争の形態が内戦やテロ等多様化・複雑化し、国際的な武力紛争及び非国際的な武力紛争の事態における紛争犠牲者等の保護を目的として、ジュネーブ諸条約を補完・拡充したのが1977年に採択されたジュネーブ諸条約追加議定書です。

これらの考えかたに基づき日本政府外務省は国際的な人道支援の原則は以下4つになっていると説明しています。



- 1) 人道原則：どんな状況にあっても、一人ひとりの人間の生命、尊厳、安全を尊重すること。
- 2) 公平原則：国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をも行わず、苦痛の度合いに応じて個人を救うことに努め、最も急を要する困難に直面した人々を優先すること。
- 3) 中立原則：いかなる場合にも政治的、人種的、宗教的、思想的な対立において一方の当事者に加担しないこと。
- 4) 独立原則：政治的、経済的、軍事的などいかなる立場にも左右されず、自主性を保ちながら人道支援を実施すること。

JAMとしては人道支援を行うことを大原則として今後も行動したいと思っています。ヤンゴンやマンダレーの惨状が伝わってきます。しかし、これらの地域で現在国際的な人道支援を行うことは極めて難しいと言わざるを得ないのが現実です。ミャンマーの保健医療従事者は大変な努力をしていることは事実でしょう。しかし、その地域に我々スタッフを送り込むことは、いかにジュネーブ4条約があるといっても、安全の確保があまりにも難しいと言わざるを得ない。このため代替えのルートとしてタイとミャンマーの国境支援を人道支援の点からつづけることこそがJAMがやるべきことと考えています。始めは全く動きをとらなかったタイ政府も、現在ミャンマー側への人道支援としての救援物資を送ることを認めたとの情報が得られています。もしかしたら、JAMは政治的発言をなぜしないのかと考える会員様もいるかもしれません。保健医療のNPO法人として人道支援をどのような形になっても続けたいという私達の考えを御理解いただき、今後とも御支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

編集後記

本業の激務に忙殺され、あっという間に新年度が始まりました。そして、最近、同僚たちから「髪の毛、かなり長くなったね」と言われることが増え、自分でも背中にまとわりつく髪の毛が邪魔くさいなと思っていたら、約1年半、美容院に行っていない、行く余裕がなかったことにふと気が付きました。ですが、ろくなお手入れをしていないわりに枝毛が見当たらないし、このままもう少し伸ばしてヘアドネーションしてみようかなと、興味を持っているところです。

ちなみに、カットした髪の毛が31cm以上であれば、小児用メディカルウィッグの素材として使えるそうです。

次号の予定



次号は、6月下旬ごろ配信の予定です。

最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年

当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。



NPO法人メータオ・クリニック支援の会
Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て Eメール	support@japanmaetao.org
JAMウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

